

## 尺八を用いた鑑賞授業の一試案

城 佳 世

九州女子大学 北九州市八幡西区自由ヶ丘1-1 (〒807-8586)

(2013年6月6日受付、2013年7月11日受理)

### 要 旨

平成18年の教育基本法の改正により、伝統文化の継承が大きく示された。これを受け、音楽科においても平成20年度の学習指導要領改訂で伝統音楽がよりいっそう重視されている。中学校においては平成10年度の学習指導要領改訂で3年間で1種類以上の和楽器の演奏が義務づけられ、現在では、ほとんどの学校がそれらの楽器を用いた表現の授業に取り組むようになっている。また、中学校のみならず、小学校においても、伝統音楽のよさを感じ取らせる授業実践が多くおこなわれている。

本稿は、その中でも特に尺八音楽の鑑賞の授業についての一試案を示すものである。尺八音楽は、楽器から音を出すことの難しさもあり、演奏に取り組む学校の数はあまり多くない。そこで、鑑賞の授業を通して、そのよさを感じ取らせる必要があると考えた。ここではリコーダーで尺八の技法を模倣し、その技法や音のおもしろさに気づかせる授業実践をもとに、尺八音楽のよさを感じ取らせる鑑賞の授業のあり方について述べていく。

### 1. はじめに

現代社会では、国際社会に生きる日本人としての自覚の育成が求められている。平成18年に改正された教育基本法前文には「伝統文化を継承し、新しい文化の創造を目指す教育を推進する」と明記されている。また、教育の目標・第二条第五項においても、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」と記述されている。

これを受け、平成20年1月の中央教育審議会の答申の中では、音楽科改訂の趣旨として、「我が国や郷土の伝統音楽に対する理解を基盤として、我が国の音楽文化に愛着をもつとともに他国の音楽文化を尊重する態度等を養う観点から、学校や学年の段階に応じ、我が国や郷土の伝統音楽の指導がいっそう充実して行われるようにする」ということが示され、学習指導要領の改訂がおこなわれた。

現在、中学校においては、ほとんどすべての学校で和楽器の演奏がおこなわれている。いうまでもなく、伝統音楽のよさを感じ取らせるには、実際に楽器に触れ、演奏をするという実体験が効果的である。しかし、箏、尺八、和太鼓など、さまざまな和楽器に取り組むことは、限られた音楽の時間の中では難しい。現在は箏がもっとも多く取り扱われているが、伝

統音楽のよさを感じ取らせるには1種類の楽器だけでは不十分である。そこで、多くの指導時間をかけずに、伝統音楽のよさを十分に感じ取らせる授業実践を開発していくことが重要である。

本稿では、尺八音楽の実践について取り扱った。尺八は、飛鳥時代に日本に伝来した楽器であり、その後日本において独特の形で発展してきた楽器である。江戸期に入って禅の世界と結びついたこの楽器がもつ多様な音色に、現在では日本のみならず世界の中でも魅了されている人々が多い。尺八音楽は、楽器の音を出すのが難しいこともあり、鑑賞教材として取り扱われていることが多い。そこで、生徒の身近にあるリコーダーを活用し、今まで自分たちが学習の中で使用してきた身近な西洋楽器と日本の伝統的な楽器との違いに気づかせることを通して、興味をもたせ、そのよさを感じ取らせる実践を提示する。

## 2. 学習指導要領及び教科書の伝統音楽の鑑賞の取り扱い

表1は、鑑賞領域の中での伝統音楽の取り扱いについて、平成20年度の小学校及び中学校の学習指導要領の内容を整理したものである。平成20年度の学習指導要領では、新たに〈共通事項〉が設定され、表現と鑑賞の関連づけが重要視された。したがって、表1の中では鑑賞として示されている、表現と関連づけた教材で取り扱われている場合も少なくない。

表1 平成20年度小学校・中学校学習指導要領、伝統音楽の鑑賞に関わる内容

学年	内容
小学校学習指導要領 第3学年及び第4学年	B 鑑賞 (2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。 ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽、郷土の音楽、諸外国に伝わる民謡など生活とのかかわりを感じ取りやすい音楽、劇の音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の楽曲
小学校学習指導要領 第5学年及び第6学年	B 鑑賞 (2) 鑑賞教材は次に示すものを取り扱う。 ア 和楽器の音楽を含めた我が国の音楽や諸外国の音楽など文化とのかかわりを感じ取りやすい音楽、人々に長く親しまれている音楽など、いろいろな種類の楽曲
中学校学習指導要領 第1学年	B 鑑賞 (1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。 イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて、鑑賞すること。 ウ 我が国や郷土の伝統音楽及びアジア地域の諸民族の音楽の特徴から音楽の多様性を感じ取り、鑑賞すること。 (2) 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国のさまざまな音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。

中学校学習指導要領 第2学年及び第3学年	<p>B 鑑賞</p> <p>(1) 鑑賞の活動を通して、次の事項を指導する。</p> <p>イ 音楽の特徴をその背景となる文化・歴史や他の芸術と関連づけて理解して鑑賞すること。</p> <p>ウ 我が国や郷土の伝統音楽及び諸外国の様々な音楽の特徴から音楽の多様性を理解して、鑑賞すること。</p> <p>(2) 鑑賞教材は、我が国や郷土の伝統音楽を含む我が国及び諸外国のさまざまな音楽のうち、指導のねらいに適切なものを取り扱う。</p>
-------------------------	---

このように学習指導要領の中では小学校3年生から伝統音楽の取り扱いが示されている。また、中学校ではさらに、文化や特徴を理解して鑑賞することが求められている。

表2は、小学校及び中学校で取り扱われている平成23年度、及び平成24年度の教科書の内容より、伝統音楽を取り扱っている鑑賞教材について比較したものである。現在発行されている教科書は3社であるが、C社については中学校の教科書の取り扱いがないため、中学校についてはA社、B社のみ記述としている。

表2 教科書における伝統音楽の鑑賞教材の比較

学年	A社	B社	C社
小学校 第3学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《郷土の音楽》</li> <li>・〈祇園囃子〉〈神田囃子〉</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・《わらべうた》</li> </ul>
小学校 第4学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈ソーラン節〉</li> <li>・〈南部牛追い歌〉</li> <li>・《郷土の民謡》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈さくら変奏曲〉</li> <li>・《日本のおまつりの音楽》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《日本のいろいろな地方の音楽》</li> </ul>
小学校 第5学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈まちぼうけ〉</li> <li>・〈春の海〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《山田耕作の歌曲》</li> <li>・《日本の民謡とこもりうた》</li> </ul>	
小学校 第6学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈箱根八里〉</li> <li>・雅楽〈越天楽〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈春の海〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・〈箱根八里〉</li> <li>・雅楽〈越天楽〉</li> </ul>
中学校 第1学年	<ul style="list-style-type: none"> <li>・箏曲〈六段の調べ〉</li> <li>・尺八曲〈巢鶴鈴慕（鶴の巣籠）〉</li> <li>・《日本の民謡》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《日本の民謡と芸能》</li> <li>・箏曲〈六段の調べ〉</li> <li>・《日本とアジアをつなぐ音》</li> </ul>	
中学校 第2・3学年上	<ul style="list-style-type: none"> <li>・《勸進帳》</li> <li>・《新版歌祭文》から〈野崎村の段〉</li> <li>・《日本の郷土芸能》</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・雅楽〈越天楽〉</li> <li>・長唄〈勸進帳〉から</li> <li>・《日本と世界をつなぐ音》</li> </ul>	
中学校 第2・3学年下	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平調〈越天楽〉</li> <li>・〈羽衣〉</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・能〈羽衣〉</li> <li>・文楽《義経千本桜》から</li> </ul>	

脚注 表では、教材の曲名を〈〉で示し、曲集や複数の曲を組み合わせた教材名等については《》で示す。

例：〈まちぼうけ〉、《新版歌祭文》から〈野崎村の段〉

尺八については、A社、B社、C社ともに小学校で〈春の海〉を取り扱っている。つまり、尺八及び箏について小学校段階で学習をしている学校が多くあるのではないかと考えられる。しかし、尺八単独の演奏についてはA社が中学校1年生で〈巢鶴鈴慕そうかくれいぼ〉を扱っているのみである。したがって、中学校で尺八音楽の鑑賞を行わない場合、義務教育においては、小学校での〈春の海〉の鑑賞が尺八音楽を鑑賞する最後の機会となっている。

平成元年までの学習指導要領には、中学校1年生で〈鹿の遠音〉、また中学校3年生で〈ノヴェンバーステップス〉が含まれていた。しかし、現在の状況をみてみると、伝統音楽の充実が求められているにもかかわらず、尺八音楽の取扱いは少なくなっているということがわかる。

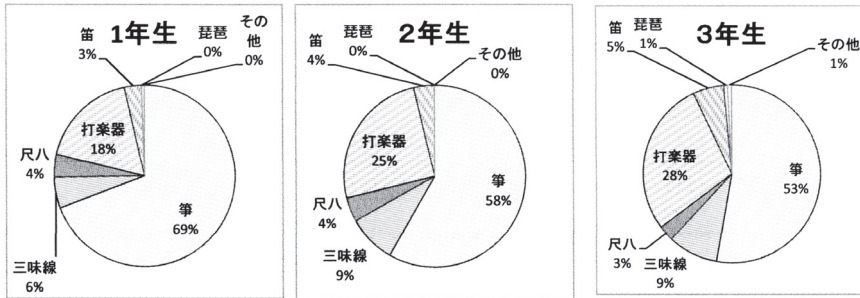
その原因のひとつとして考えられるのが、表現と鑑賞を関連づけた授業である。後述するが、和楽器を用いた楽器指導としては、現在、箏がもっとも多く用いられている。これは、音が出しやすいこと、演奏がしやすいことなどがその理由として考えられる。そのため、表現と鑑賞を関連づけた和楽器の授業として、箏の鑑賞教材が多く用いられているのである。その結果、平成元年度までは、中学校の鑑賞教材の中に箏曲〈六段の調べ〉、尺八曲〈鹿の遠音〉の両方が示されていたにもかかわらず、尺八曲が減少していると考えられる。

### 3. 伝統音楽の指導の実態

表3は、福岡県の中学校の音楽科で演奏した和楽器の種類の実態である<sup>1)</sup>。これは、平成23年度福岡県教育課程実施状況調査として、政令指定都市である福岡市、北九州市を除く福岡県内の公立中学校211校にアンケート形式で行われたものである。

表3 平成23年度教育課程実施調査中学校（音楽）和楽器の使用状況等について（福岡県）

演奏した和楽器の種類	1年	2年	3年
箏	137	95	75
三味線	11	14	13
尺八	8	7	4
打楽器	35	41	40
笛	6	6	8
琵琶	0	0	1
その他	1	0	1



また、表4は平成18年の10月の鹿児島県総合教育センターが発行した指導資料第33号に掲載された「必修教科における和楽器を用いた器楽指導において使用する和楽器別の学校数」である。

表4 器楽指導において使用する和楽器別の学校数（鹿児島県）

演奏した和楽器の種類	1年	2年	3年
箏	73	148	46
三味線	48	48	62
打楽器類	51	44	46
笛	16	9	15
尺八	9	11	15
琵琶	0	0	1
その他	8	5	5

表3、表4の結果より、器楽指導の授業の中で最も多く取り扱われているのは箏であることがわかる。次に、三味線、打楽器類が多く、尺八の授業に取り組んでいる学校はあまり多くない。和楽器の場合、様々な種類の和楽器を生徒の人数分を揃えることは現実的には難しく、学校、または地域で購入した楽器を継続して使っていく場合が多い。したがって、伝統音楽の器楽指導に関わる授業としては、これからも箏、三味線、打楽器類が中心におこなわれていくのではないかと考えられる。

#### 4. 尺八音楽の授業実践

音楽の授業の中に、尺八を取り入れる授業研究及び授業実践はすでに数多く存在している。『尺八を用いた中学校音楽科の授業実践の試みー〈鹿の遠音〉を手がかりに』(高木・藤井2012、p.127)の中では、尺八音楽の授業実践を、以下の5つに大別している。

- ① 視聴覚教材による鑑賞が中心であるが、尺八の実演を取り入れるため、地域の尺八奏者、

愛好家をゲストティーチャーとして招聘する試みが行われている。

- ② 鑑賞の際、フルートやアルトリコーダーなど、他の管楽器との比較によって尺八の特徴を探るものが多く行われている。
- ③ 尺八の表現活動も模索されているが、本物の尺八を用いた実践事例は必ずしも多くない。代用楽器として、簡易尺八や塩化ビニル管を用いた実践が行われている。また、塩化ビニル管で生徒自ら手作りで代用楽器を制作する活動も行われている。その上で、本数が少なくても本物の尺八にふれることで、尺八のよさを感じ取っている事例が多い。
- ④ 尺八の6つの音を用いた簡単な曲、わらべうたなどを演奏したり、簡単な旋律を創作したりして、演奏活動につなげている事例が多い。
- ⑤ 郷土の伝統音楽と尺八を関連づけた授業実践は管見の限り見あたらない。

これらの実践について考察すると、①②は鑑賞活動を主に取り扱った実践、③④は表現活動、つまり尺八の演奏を主に取り入れた実践として分類することができる。①の実践では、音楽の時間に実際に演奏家をゲストティーチャーとして招聘し、生の演奏に触れさせることで、その音色のよさやおもしろさを感じ取らせることができる。楽器に関する質問、音に関する質問、演奏に関する質問などにも直接答えてもらうことができるため、生徒の尺八音楽に対する興味や関心を高めていくことができる。しかし、音楽の授業の一環としておこなう場合には、学習のねらいを明らかにして、ゲストティーチャーとの事前の打ち合わせを入念に行い、それぞれの役割を明確にしておくことが重要である。しかし、教師側の意図と演奏家の意図が一致しないこともあり、両者の意志の疎通が課題となることも少なくない。②は、他の管楽器の演奏と比較聴取することで、その違いを感じ取らせる実践である。他の楽器と比較聴取する手だてとしては、他の楽器で演奏した音源と比較聴取させる場合と、生徒自身にリコーダーで演奏させて、音色の違いを比較させる場合とがある。また、DTMで音源を作成し、日本の音楽との拍の違いを感じ取らせる実践もみられる。音源を使った比較聴取の場合、意図的に何を比較させるのかを明確にして授業をおこなうことで生徒自身に尺八の音色のおもしろさを感じ取らせることができる。しかし、導入の部分で意欲を喚起させることが不十分な場合、受動的な鑑賞の授業になってしまうことも少なくない。生徒自身がリコーダーで演奏し、尺八音楽との音色の違いを比較する授業においては、生徒自身が演奏する活動をおこなうため、生徒は主体的に授業に取り組もうとする。しかし、リコーダーの演奏のスキル等が必要であるため、リコーダーが苦手な生徒にとっては、かなり労力を要するものとなる。③④に関しては、実際の尺八の演奏に取り組むため、生徒はかなり意図的に学習に取り組むことができるが、楽器の問題、時数の問題など学校現場で実際におこなうことは難しい現状もある。また、多くの実践事例では尺八の音を最後まで出すことができなかつた生徒がいるなどの課題もみられる。

## 5. 授業実践

ここでは、尺八の技法に着目し、尺八の技法をリコーダーで試してみるという手法で授業実践を行い、尺八音楽のよさを感じ取らせるようにした。本実践で、リコーダーを活用した理由として下記の3点を挙げる事ができる。

- ①日常的な授業の中で用いており、ほとんどの生徒が演奏することができる。
- ②簡単に音を出すことができるため、技法をたしかめやすい。
- ③自分の楽器をもっている。

尺八のおもしろさのひとつには、多様な奏法とそれによって作り出される音がある。尺八は、顎を動かしたり、息を強く入れたりすることで様々な音を作り出していくことができる。そのため、音の違いを視覚的な側面からも理解することができる。しかし、尺八の音を出すことは、かなり難しく、「首振り3年コロ8年」と言われるように、さまざまな技法を使って演奏することは簡単ではない。一方、リコーダーは息を入れるだけで容易に音を出すことができる。また、尺八のように頭や顎を動かすような技法はあまりみられない。そこで、尺八の多様な技法をリコーダーで試奏させ、「リコーダーでも尺八と同じような音がでるか」「尺八の技法はリコーダーでも有効か」という点について確認をしながら授業をすすめることで、尺八の音の多様さに気づかせることができるのではないかと考えた。尺八の技法は、DVDなどで視覚的に確認して、リコーダーでもその動きを再現することができる。また、リコーダーではそれを音として確かめることができる。

リコーダーは、小学生・中学生にとっては、日常的に演奏をしている楽器であり、演奏についてある程度習熟している。多くの学校では一人1本ずつ自分のリコーダーをもっており、楽器を共有して使うことに抵抗がある多くの児童や生徒にとっても、スムーズに授業を進めることができると考えられる。

次に技法に着目した理由として、下記の2点をあげることができる。

- ①リコーダーが苦手な生徒にとっても抵抗なく取り組むことができる。
- ②音の違いに着目することができる。

曲を演奏するためには、まずリコーダーの技能が必要である。尺八曲をリコーダーで演奏する場合、音域が広く難しいことが課題である。また、尺八楽譜、五線楽譜にかかわらず楽譜そのものに苦手意識をもっている生徒がいることも否めない。そこで、本実践ではリコーダーや読譜を苦手としている生徒にとっても意欲的に取り組むことができるように技法に着目した。

もちろん、尺八音楽のよさは音の多様だけではない。日本独特の拍の流れ、音階など様々なよさをもっている。しかし、ここでは、尺八音楽のもっとも特徴的な要素の一つである音についての理解を深めさせるための実践をおこなうことにした。

## 5-1 実践の概要

題材名 尺八音楽に親しもう  
教材名 〈巢鶴鈴慕〉  
日時 平成25年2月15日(金)  
対象 福岡県飯塚市立飯塚第三中学校第1学年  
指導者 筆者

### 授業の流れ

#### 第1時 ねらい

尺八とリコーダーと比較することを通して、尺八についての理解を深める。

### 学習活動

- 1 尺八とリコーダーの外見上に違いをみつけ、発表する。
- 2 尺八の技法についてのDVDを視聴し、リコーダーで試奏する。
- 3 試奏した結果をワークシートに記入する。
- 4 尺八で演奏した場合、どのような音がしていたかについてワークシートに記入する。
- 5 意見を交流する。

#### 第2時 ねらい

〈巢鶴鈴慕〉を鑑賞し、尺八の音によるイメージを深める。

### 学習活動

- 1 それぞれの技法、音色について確認をする。
- 2 〈巢鶴鈴慕〉を音源のみで鑑賞する。
- 3 尺八の特徴的な音がどのような場面を表しているかワークシートに記入する。
- 3 意見を交流する。
- 4 〈巢鶴鈴慕〉をDVDで視聴する。
- 5 授業の感想を書く。



## 5-2 授業の実際

### (1) リコーダーと尺八の外見上の比較

実践校には尺八が1本だけある。生徒は、新しい楽器には興味を示し、実際に触ってみたい、音を出したりしようとする。そこで、まず最初に尺八をみせることで興味をもたせるようにした。ここでは、リコーダーとの違いに絞って観察をさせた。表5は、生徒が気づいた内容である。

表5 尺八とリコーダーの外見を比較して気づいたこと

尺八	リコーダー
穴の数が5個。	穴の数が7個。
アルトリコーダーよりも長い。	尺八よりも短い。
アルトリコーダーよりも太い。	尺八よりも細い。
ウィンドウがない。	ウィンドウがある。
竹でできている。	プラスチックでできている。
吹き口（歌口）が出っ張っていない。	吹き口が出っ張っている。
吹き口（歌口）が太い。	吹き口が細い。
穴が大きい。	穴が小さい。
素材の形がそのまま。	素材を加工している。
口をつけて吹かない。	口をつけて吹く。

ここでは生徒自身が持っている教材用のリコーダーと比較したため、「素材がプラスチック」「吹き口が出っ張っている」など、いわゆる本物のリコーダーとの相違もあったが、その点については、随時に補足説明をおこなうようにした。最初にリコーダーとの比較をせずに、尺八だけをみせて特徴だけを発表させたときには、「竹でできている」「穴の数が5個」「吹き方が違う」など、いくつかの意見しかでてこなかったが、対象をリコーダーに絞って、比較させたことにより、表5のように様々な観点で、尺八をより深く観察することができた。対象物を使って比較することは、興味や関心を引き出し、その特徴を気づかせるためにも有効であった。

### 5-3 技法による比較

尺八の技法を説明したDVD<sup>2)</sup>を使用し、実際にリコーダーで試奏させた。DVDは、技法についての説明→演奏という構成になっている。そこで、ひとつひとつの技法について、DVDを一時停止しながら試奏を行った。

## 顎によるもの

尺八の技法		リコーダー
カリ音	顎を出すようにして吹く奏法。音程が上がる。	できない
メリ音	顎を引くようにして吹く奏法。音程が下がる。	できない
ユリ音	顎を振って、ビブラートをかける奏法。	できない

## 指によるもの

尺八の技法		リコーダー
スリ	ポルタメント。指を少しずつ開ける奏法。	できる
オシ	ふさいでいる音を瞬間に離し、またふさぐ奏法。	できる
ウチ	指で穴をうつ奏法。	できる
コロコロ	二本の指を使うトリル奏法。	できる
カラカラ	一本の指を使うトリル奏法。	できる

## 息によるもの

尺八の技法		リコーダー
ムラ息	激しく吹き噪音を出す奏法。	できない
タマ音	巻き舌を使うフラッター奏法。	できる

生徒は、それぞれの技法についてリコーダーと比較することによって「顎によるものはリコーダーではできない」「指によるものはリコーダーでもできる」「息によるものはできるものとできないものがある」ことに気づくことができた。それぞれの技法をリコーダーで試奏した結果、尺八の音について以下のような記述がみられた。

波がある。きれいな音がする。不思議な音がする。かすれている。ビブラートもよく使っている。リコーダーでは出せない音がでる。高くてきれいな音色。明るい音や暗い音。澄んだ音。低い音から高い音までなめらかにでる。ピロピロピロピロという音がする。音が透き通っている。

具体的に、それぞれの技法について確認しながら、音を聴かせたことにより様々な音があることに気づかせることができた。また、尺八の授業についての感想の中では、音のおもしろさについて以下のように記述している。

- ・別の楽器を使っているような音色。
- ・一本で吹いているとは思えない。
- ・吹く息によって音が変わるので不思議。
- ・いろんな音がでるのでびっくりした。
- ・息だけでかすれたり、顎を使うだけで音が変わるのはすごい。
- ・息によって、独特な音色と表情を出すことができるのですごい。
- ・顎を引いたら、音が下がって暗く沈んだ音色になる。顎を出したら音が上がり、明るく開放的な音色になる。
- ・音の高い、低いだけではなく音色がたくさんある。
- ・たま音をよく使っている。
- ・音色がめっちゃきれいだった。
- ・鶴の鳴き声が、尺八の音でよくできていると思いました。
- ・高い音がめっちゃきれいだった。響くところがよかった。

リコーダーの音と尺八の音と比較したことにより、90%の生徒が「すごい」「ふしぎ」「きれい」など、尺八の音のおもしろさやよさに気づく記述をしていた。

#### 5-4 授業のまとめ

尺八の技法、そして多様な音のおもしろさに気づかせた後に、〈巢鶴鈴慕〉の鑑賞を行った。音についての理解を深めているため、鑑賞に意欲的に取り組む姿がみられた。「ムラ息だ」「タマ音が鶴の鳴き声を表している」など、DVDで視聴する際には、演奏者にも関心をもって鑑賞することができた。授業の感想は以下の通りである。

- ・尺八はリコーダーと違って、いろいろな表現のしかたがあつてすごくおもしろいと思う。低い音もきれいで、高い音も澄んでいてとてもきれい。1つだけで演奏しているのに、3つあるように聞こえる。尺八だからこそできる演奏だと思った。
- ・尺八1本でこんなにもいろいろな音色、技法があるんだなと思いました。たくさんの技法を使って演奏していたので、その場の様子がくわしく書かれていたのですごかったです。よかったです。
- ・いろんな表現ができるのでとっても楽しいと思いました。息だけでかすれたり、アゴを使うだけで音が変わるのはすごいと思いました。僕も尺八が吹けるようになりたいです。とってもいい学習でした。

尺八の音の特徴を理解させてから、視聴をしたことにより、生徒は興味をもって鑑賞活動を進めることができた。このことから、本実践は尺八音楽のおもしろさを感じ取らせることのできる有意義なものであったと考えることができる。

## 6. おわりに

伝統音楽の鑑賞の授業では、音楽になじみがないため、最初から、「興味がない」「おもしろくない」と否定的な意見を言う生徒も少なくない。しかし、身近な楽器であるリコーダーを使い、技法に着目して実践を行ったことで、効果的に尺八音楽のよさを感じ取らせることができた。本実践は、中学校のものであるが小学校でも十分に実践することができる。

日本の伝統音楽は尺八音楽だけでなく様々な音楽がある。国際社会に生きる日本人として、日本の文化のよさを理解するためにも、義務教育の中の限られた時間の中で、日本の伝統音楽のよさを伝えていく実践を開発していくことは意義のあることである。

## 注

- 1) 『平成23年度教育課程実施調査中学校和楽器の使用状況等について』(2012)は、福岡県教育委員会義務教育課からの資料提供による文献である。
- 2) 本実践で使用したDVDは以下の通りである。  
『中学校の音楽鑑賞(2) 1 学年』(2006)ビクター・エンターテイメント

## 引用・参考文献

- 渡辺智子(2002)「日本の伝統音楽に親しむ学習活動の創造—音楽の諸要素に着目した表現と鑑賞の指導を通して」『広島県教育センター教育研究シリーズ49』広島県教育センター 49-56
- 鹿児島県総合教育センター(2006)『指導資料 音楽第33号』1-4
- 田中健次(2008)『図解 日本音楽史』東京堂出版
- 宮本憲二(2009)「中等科音楽における生徒の理解に着目した和楽器指導—「箏」を扱った授業における効果的な指導とは」『尚美学園大学芸術情報研究16』1-19
- 畑中良輔 他(2011)『小学生のおんがく1』『小学生の音楽2』『小学生の音楽3』『小学生の音楽4』『小学生の音楽5』『小学生の音楽6』教育芸術社
- 三善晃 他(2011)『小学音楽・おんがくのおくりもの1』『小学音楽・音楽のおくりもの2』『小学音楽・音楽のおくりもの3』『小学音楽・音楽のおくりもの4』『小学音楽・音楽のおくりもの5』『小学音楽・音楽のおくりもの6』教育出版
- 湯山昭 他(2011)『あたらしいおんがく1』『新しい音楽2』『新しい音楽3』『新しい音楽4』『新しい音楽5』『新しい音楽6』東京書籍

- 
- 高木いずみ・藤井浩基(2012)「尺八を用いた中学校音楽科の授業実践の試みー〈鹿の遠音〉を手がかりにー」『島根大学教育臨床研究11』119-133
- 畑中良輔 他(2012)『中学生の音楽1』『中学生の音楽2・3上』『中学生の音楽2・3下』教育芸術社
- 三善晃 他(2012)『中学音楽・音楽のおくりもの1』『中学音楽・音楽のおくりもの2・3上』『中学音楽・音楽のおくりもの2・3下』教育出版

## **A tentative plan of Shakuhachi for music appreciation classes**

Kayo JO

Department of Education and psychology, Faculty of Humanities,

Kyusyu Women's University

1-1 Jiyugaoka, Yahatanishi-ku, Kitakyusyu City Fukuoka, 807-8586, Japan

### **Abstract**

The Fundamental Laws of Education in Japan were edited in 2006 to promote the heritage of Japanese traditional culture. In keeping with this, the Curriculum Guideline standards issued in 2008 by the Ministry of Education placed a greater emphasis on traditional Japanese music. Most junior high school students have been playing Japanese musical instruments since 1998 and many elementary schools have also developed teaching materials for such classes.

This paper presents a tentative plan for Shakuhachi music appreciation classes. Very few schools teach Shakuhachi because sound production is difficult. This paper proposes that we let students understand the beauty of the Shakuhachi music through music appreciation classes. I conclude that students should play recorders to imitate the techniques of the Shakuhachi. This experience will allow them to appreciate the sounds and techniques of the Shakuhachi.

Keyword: music classes, Shakuhachi music, music appreciation classes, traditional Japanese music, teaching materials